

第6回まちなかのにぎわい創出円卓会議議事録

議 題	(1) まちなかのにぎわい創出の取組について（経過報告及び取組総括） (2) 図書館等図書館等複合施設「まちやま」施設見学		
協議日時	令和4年6月28日（火）14:00～16:15	会 場	三条市図書館等図書館等複合施設「まちやま」 会議室
出席者	川口委員、長野委員、小林委員、長谷川委員、村山（宥）委員、藤井委員、 吉田委員、結城委員、水沼委員 （欠席）高橋委員、久野委員、松原委員、井上委員、村山（伸）委員 （事務局） 上原市民部長 生涯学習課 恋塚課長、永井課長補佐、岡田係長、竹田主任、泉田主任 地域経営課 小島課長、長野主事 環 境 課 坂上係長、佐藤主査 商 工 課 竹田係長 政策推進課 田村主任		
傍聴者	なし		
報道機関	三條新聞社		
概 要	<p>1 開 会（司会：竹田主任） 本日の議事進行を川口委員に依頼することで全員了承</p> <p>2 議 事（進行：川口委員） (1) まちなかのにぎわい創出の取組について（経過報告及び取組総括） （上原市民部長が資料に基づき説明） （質疑） ■公共施設の魅力向上について（資料P.3・4） 結城委員：三条市の公共施設はソフト面が弱い。運営者が結局どのターゲットにも刺さらないようなコンテンツしか出来ていない印象がある。三条市ではものづくりに特化したような催しなど工夫してできると思うが、行政としては全体目線になりがちで、結果としてどのターゲットにも刺さらないという結果になってしまうのではないか。 川口委員：円卓会議の委員でもあり、今回の図書館等複合施設の指定管理者である「ツクール・ド・さんじょう」が良い効果を生み出すように運営していただくことを期待している。 藤井委員：資料において、各公共施設の利用者数のみの数字を記載している</p>		

が、令和元年度からは感染症渦でもあったため、一部数字が持ち直すのは当然である。そもそもの設定としてどのように目標数字を取ったか、その結果どうであったかということが大事である。

生涯学習課長：資料に記載した中央公民館リニューアルについては、全体として2割程度の伸びを期待していたが、結果としては1か月で480人程度利用者があった。リニューアルしたことによって中高生が中央公民館に勉強しにくるという良い効果が出ている。体育文化会館についてもホールでコンサートなど様々なイベントを行っており、利用の広がりを見せているが、市民の利用に留まっているというのが課題の一つと思う。

結城委員：中央公民館リニューアルについて、最初は変わったと思ったが、今は全く変わり映えしない。それではハード環境が便利だから使っているにすぎない。好きになるソフトの仕掛けが弱い。毎日来る人に飽きさせない仕掛けが必要である。

生涯学習課長：今後は中央公民館で三条のものづくりの展示も考えている。正月は寅年に合わせて地元の方から協力いただき虎の剥製の展示も行ったところであり、今後もアイデアを皆様から聞きたい。

吉田委員：八幡公園のリニューアルにより地域に子ども達の声が聞こえるようになったが、公園内の時計が止まったまま直らない。子ども達が遊びの時間を確認するのにとてもあの時計は重要である。市に問い合わせしたところ、三条祭りが終わったら時計が撤去されて終わってしまった。今後あの時計はつくのかつかないのか。ぜひつけてほしい。

生涯学習課長：担当課である建設課に話をしておく。

長谷川委員：資料に三条鍛冶道場のPR不足ではないかとの意見の記載があったが、県外や海外からの利用者はとても多い。一方で、市民の利用率は低い。図書館等複合施設の建設が始まった頃、三条新聞の投稿に鍛冶ミュージアムの必要性について問われた投稿があったかと思う。また、市民のものづくりのまちの意識が低いというというのは感じている。開館後は鍛冶ミュージアムとうまく連携して、ものづくりのまちをPRできる絶好の機会ではないかと思う。営業戦略室から修学旅行生を呼び込みたいとの話もあり、こちらも工夫して対応したいと思っている。連携して鍛冶ミュージアムでもものづくりの歴史を皆さんに知ってもらいたいという期待をしているので、鍛冶ミュージアムの展示についてじっくり考えていただけるとありがたい。

商工課係長：引き続き三条鍛冶道場との連携をしっかりとやっていきたい。

生涯学習課長：学芸員ともしっかりと連携したい。

■にぎわい創出のためのコンテンツの拡充と磨き上げ、民間活力の導入について（資料P. 5・6）

長野委員：NPO えんがわとして、まちなかのにぎわい創出のためにこれまでイベントなどの企画を定期的に行ってきたが、今後は図書館等複合施設に来れば何か楽しめることがあるだろう、だけでなく、この施設から三条市の他の魅力的な場やコンテンツにつなげていくイメージである。河川敷は結構人が歩いていたり、カヌーを楽しんでいたりと、楽しめるコンテンツが多くある。下田地域も川から行けば決して遠くない。各施設でイベント等を行うだけでなく、ここからつなげる、ということが大事な視点であると思う。

地域経営課長：まちなかのキーパーソンや関係団体と図書館等複合施設でまちなかの回遊性を高めるという考えはもっている。当施設を出発点として先につなげるというのは仰るとおりであると思うので、我々も検討していく。

水沼委員：「にぎわい」という言葉が漠然としており難しいが、誰かが先に一歩行かないと面白いコンテンツにならない。若手プレイヤーたちと書いてあるが、どこかに面白がってやってくれる人たちをうまくピックアップすることが大事である。そして、市の方も、その人たちの窓口になってくれるキーマンの職員をより動きやすくすること仕組みを作ることが必要である。担当者レベルでもある程度権限を持って動けるような仕組みが大事である。

自分達のまちはあまり魅力がないというのはこの人達でも言っていると思うが、三条鍛冶道場には公共施設には珍しく火を使ったワークショップができるなど、県外からも人を呼べる力がある。そして今後は隣に鍛冶ミュージアムもできる。いいコンテンツだと思うので、それをどう面白がって使っていくかが大事である。

吉田委員：遠くからの来客も大事だが、まずは地元の人からこの施設をとっても良いものであると認知され、口コミで広がっていくことが大事である。市や運営者だけでなく、地元の人たちみんなで盛り上げなければいけない。また、まちなかを盛り上げるためにこれまで八幡町の花植えを行ってきたが、突然事業が終わってしまった。盛り上げていくには、ある程度事業の継続性も大事である。

市民部長：個々だけでなく市民全体として取り組んでいかなければならない。

藤井委員：佐賀県武雄市の図書館は、地元の方が多く使っている。その結果駐車場が足りなくなったが、今度は子供向け図書館を建設する動きにつながった。いかに地元の方に使っていただくことが大事かという例だと思う。そして、皆さんと一緒にアイデアを出して盛り上げてもらうことが必要である。

■まちなかを歩いて回遊する環境づくりについて（資料 P. 7）

藤井委員：北三条駅が事実上無人化した、北三条駅の構内スペースをむしろ市が借り上げて活用するということもありなのではと思った。また、早ければ 10 月から須頃地区とまちなかを結ぶ新規路線を開設するため検討と記載があるが、北三条駅があるのに本当にこの路線は必要なのか。ただですら公共交通が弱いとは思いますが、弥彦線は結構人が乗っていた。しかし、北三条駅は素通りである。バスターミナルはどうするのか。どういうふうに市が考えているのか注視したい。

環境課係長：まちなかのバスでは、市でぐるっとさんという循環バスを走らせているが、こちらにはぎわい創出の観点とは別に見直しが必要ということで検討してきた。7 路線の見直しに合わせて、私立大学や県央機関病院があるため、まちなかに学生から居住してもらい須頃地区までの足を確保するというで考えている。現在、地域公共交通協議会で検討中であり、まだ結論が出たわけではないが、合意がとれれば 10 月にも運用を行なっていく。

藤井委員：ぐるっとさんで一番使われているルートはどこか。

環境課係長：三条高校に行くルートが一番使われている。

結城委員：もう少し市は JR と連携した方がよい。図書館等複合施設から移動するにしても燕三条駅や北三条駅は外せない。駅構内にコンテンツを増やすとかできないか。

藤井委員：燕三条駅で降車する人はほぼビジネスマンという印象であった。燕三条駅にしても鳥居ぐらいしか撮るものがない。

生涯学習課長：駅長も何年かで異動されるので、連携していくには継続して良い関係を築くことが必要である。

長野委員：観光列車の四季島が東三条駅で停車している時間（2 時間程度か）でも、パッと分かってすぐに観光に行ける場があると良い。

結城委員：燕市の産業資料館はコンテンツが強いが、アクセスが悪い。JR 停車駅があることは強みである。

長谷川委員：県外から多く訪れるスノーピーカーは、日中やることがないため、まちなかにやってくる。連休になると県外ナンバーの車がとても多い。先週の日曜日は九州大分や兵庫、神戸、宝塚からも来ていた。

■全体総括（P. 8）

小林委員：ここに記載していることを実現するにはどうしたらよいか。これまでこの事務局は生涯学習課であったが、まちなかのぎわい創出の司令塔は地域経営課ではないのか。まちなかを盛り上げるために踊る人や冷めた人その色々な人を巻き込む技、それが市役所で一番

	<p>足りない。ステージえんがわは高齢者福祉目線が発端であったが、その整理もできていない。公共施設はソフト事業が要であると結城委員が話をしていたが、地域経営課には今以上に頑張っていたきたい。</p> <p>地域経営課長：重く受け止める。表に出ていなかったのはそのとおり。外からいろんな人を呼び込んで進めていくという考えもあるが、当然地元の人たちを巻き込まないとだめというのはおっしゃるとおり。上手に回していくのは地域経営課の役割と考えているので、しっかり考えていく。</p> <p>藤井委員：私自身は一緒になって市の方とお話しする中でやっていくという立場と思っている。これまで本会議体で様々なことを議論し、このまちをなんとかしようとしてきた。私たちは今後も一緒になってやろうと思っている。でも、これで本当に良いかというのはある。PDCAを今後回していく上で、どうしていくのか。Aが落ちているままの総括はどうか。本会議体の皆さんで考えていかないか。</p> <p>川口委員：まだ途中の段階なので総括という言葉に違和感がというのが出てきたのではないか。検証は時間がかかるが、これをどう活用するか、今後も議論は必要と思うが、この会議体としてはここで一定の区切りとしては必要と思う。</p> <p>結城委員：市民一人一人が当事者意識を共有するための意識形成が必要というのがより重要な総括部分だと思う。ここで一緒になってやっていける雰囲気である。もう一歩進めると本当に役所に投げっぱなし、市民に投げっぱなしではない関係性が築けるのではと思う。</p> <p>(2) 図書館等図書館等複合施設「まちやま」施設見学 (永井課長補佐が施設案内)</p> <p>3 閉 会</p>
備考	